

施策評価シート

施策等名称	居場所づくりの推進	体系番号	0201010109
		主管課	こども課

1 施策基本情報

現状と課題	地域における子どもの居場所は茅野市こども館や地区こども館、学童クラブだけではなく、より身近な区・自治会へと広がることが理想です。子ども食堂や学習支援の場の設置を支援することにより、子どもと大人が地域でつながることが期待されています。
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	家庭や保育園、学校の他に子どもや大人の心の居場所となる多様性のある環境づくりを推進します。また、全ての子どもたちが孤立することなく社会とつながり続けられるように環境を整えます。

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値
	①	市内利用者延べ人数(こども館0123広場)の増	利用者数の維持と増加(人)	10056.00	14000.00
②	利用者延べ人数(こども館CHUKOらんどチノチノ)の増	利用者数の維持と増加(人)	16858.00	17000.00	17000.00
③	学童クラブ入所率の継続	入所数/入所希望者数(%)	100.00	100.00	100.00

施策の柱1	名称	茅野市こども館・地区こども館による子どもの居場所づくりの推進		主管課	こども課		
	詳細	0123広場やCHUKOらんどチノチノ、また、各地区に開設されている地区こども館をはじめ、保育園、学校、公民館等多くの場所で子どもの居場所づくりが行われています。その中で、茅野市こども館と地区こども館は、単に子どもの居場所だけでなく、子どもの主体性を育む場、親同士がつながりを持てる場、地域の人と一緒に活動する場、地域への愛着を育む場としての機能も持ち合わせています。それらの効果で、子どもたちが将来、住みたくなる魅力あるまちづくりを推進します。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	市内利用者延べ人数(こども館0123広場)の増	利用者数の維持と増加(人)	10056.00	14000.00 14000.00	1 こども館0123広場運営事業	実施
	2	利用者延べ人数(こども館CHUKOらんどチノチノ)の増	利用者数の維持と増加(人)	16858.00	17000.00 17000.00	2 地区こども館運営事業 3 こども館CHUKOらんどチノチノ運営事業	実施
	3					4 5 6	

基本政策間連携

施策の体系	名称	地域の特徴を生かした子どもの居場所づくり		主管課	こども課		
	詳細	子どもの居場所とは、そこに人がいるというだけでなく、心の安心を感じられることが必要であることから、より身近な場所での居場所づくりを応援します。子どもも大人もともに心の支えとなりうる居場所を提供すること、全ての子どもが孤立することなく、心の貧困に陥らない、地域とのつながりを持ち続けるための環境づくりを進めます。併せて子どもの貧困という側面から、子どもの居場所として学童クラブや地区こども館を活かした学習支援として、長期休業中に学習支援ボランティアを導入できないか検討します。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	学童クラブ入所率の継続	入所数/入所希望者数(%)	100.00	100.00 100.00	1 子どもの居場所づくり推進事業	検討中
	2					2 学童クラブ運営事業	実施
	3					3 4 5 6	

基本政策間連携

施策の柱3	名称			主管課			
	詳細						
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1					1	
	2					2	
	3					3 4 5 6	

基本政策間連携

施策等名称	居場所づくりの推進	体系番号	0201010109
		主管課	こども課

## 2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
施策	市内利用者延べ人数(こども館0123広場)の増	10056.00	11682.00	9290.00	5615.00	5662.00	7303.00
		14000.00	83.44	66.36	40.11	40.44	52.16
変動要因等	2018年度	子育て講座や行事を充実させていることもあり、近隣の市町村の子育て支援施設が増加している中、利用者数を維持できている。					
	2019年度	新型コロナウイルス感染症による1ヶ月間の休館により利用者が減少した。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症による2か月間の休館とその後の入館制限等により利用者が減少した。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染症による入館制限等により前年度並みとなった。					
	2022年度	新型コロナウイルス感染症のレベルに応じた利用制限の見直しを行ったため、前年度より利用者が増加した。					
施策	利用者延べ人数(こども館CHUKOらんどテクノ)の増	16858.00	13909.00	9015.00	2898.00	3470.00	3994.00
		17000.00	81.82	53.03	17.05	20.41	23.49
変動要因等	2018年度	施設利用者が提案する自主企画事業、地域の行事への参加等を多く行い、世代間交流や地域交流することはできたが、そこから施設利用者増加にはいたらなかった。					
	2019年度	近隣市に同様の機能をもった施設が開館したこと、また新型コロナウイルスによる1か月間の休館により利用者が大幅に減少した。					
	2020年度	新型コロナウイルスによる2か月間の休館とその後の利用制限より利用者が大幅に減少した。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染症による入館制限等により前年度並みとなった。					
	2022年度	新型コロナウイルス感染症による入館制限等があり利用者は前年度並みとなった。					
施策	学童クラブ入所率の継続	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
変動要因等	2018年度	学童クラブ利用対象児童を1年生から6年生としたことで、利用児童が増加している。					
	2019年度	大規模校(永明、宮川、玉川)に合計4学童クラブを増設し、国の参酌基準に沿った運営を行うことができた。3月の小学校臨時休業期間中は全学童クラブで一日学童を実施し、学童クラブを必要とする家庭のニーズに応えることができた。					
	2020年度	新型コロナウイルスの影響による2か月間の臨時休業期間中、また再開後も感染症対策をとりながら、運営することができた。					
	2021年度	利用児童数に応じた居室及び支援員の確保により目標の入所率を達成できた。					
	2022年度	利用児童数に応じた居室及び支援員の確保により目標の入所率を達成できた。					
柱1	市内利用者延べ人数(こども館0123広場)の増	10056.00	11682.00	9290.00	5615.00	5662.00	7303.00
		14000.00	83.44	66.36	40.11	40.44	52.16
変動要因等	2018年度	子育て講座や行事を充実させていることもあり、近隣の市町村の子育て支援施設が増加している中、利用者数を維持できている。					
	2019年度	新型コロナウイルス感染症による1ヶ月間の休館により利用者が減少した。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症による2か月間の休館とその後の入館制限等により利用者が減少した。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染症による入館制限等により前年度並みとなった。					
	2022年度	新型コロナウイルス感染症のレベルに応じた利用制限の見直しを行ったため、前年度より利用者が増加した。					
柱1	利用者延べ人数(こども館CHUKOらんどテクノ)の増	16858.00	13909.00	9015.00	2898.00	3470.00	3994.00
		17000.00	81.82	53.03	17.05	20.41	23.49
変動要因等	2018年度	施設利用者が提案する自主企画事業、地域の行事への参加等を多く行い、世代間交流や地域交流することはできたが、そこから施設利用者増加にはいたらなかった。					
	2019年度	近隣市に同様の機能をもった施設が開館したこと、また新型コロナウイルスによる1か月間の休館により利用者が大幅に減少した。					
	2020年度	新型コロナウイルスによる2か月間の休館とその後の利用制限より利用者が大幅に減少した。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染症による入館制限等により前年度並みとなった。					
	2022年度	新型コロナウイルス感染症による入館制限等があり利用者は前年度並みとなった。					
柱2	学童クラブ入所率の継続	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
変動要因等	2018年度	学童クラブ利用対象児童を1から6年生としたことで、利用児童が増加している。					
	2019年度	今年度大規模校(永明、宮川、玉川)に合計4学童クラブを増設し、国の参酌基準に沿った運営を行うことができた。3月の小学校臨時休業期間中は全学童クラブで一日学童を実施し、学童クラブを必要とする家庭のニーズに応えることができた。					
	2020年度	新型コロナウイルスの影響による2か月間の臨時休業期間中、また再開後も感染症対策をとりながら、運営することができた。					
	2021年度	利用児童数に応じた居室及び支援員の確保により目標の入所率を達成できた。					
	2022年度	利用児童数に応じた居室及び支援員の確保により目標の入所率を達成できた。					

施策等名称	居場所づくりの推進	体系番号	0201010109	
		主管課	こども課	

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目		2018年 (前年度比)	2019年 (前年度比)	2020年 (前年度比)	2021年 (前年度比)	2022年 (前年度比)
投資額	事業費(円)	112,748,867	149,958,088	128,411,996	109,448,460	138,726,798
	うち一財(円)	51,961,100	53,969,778	39,068,096	31,450,310	52,346,766
	増減理由 (一般財源前年度比±10%以上の場合に記載)				こども館0123広場床改修工事・照明LED化工事の皆減	こども館CHUKOらんどテクノスタジオ改修工事の皆減
進捗評価		おおむね順調	おおむね順調	おおむね順調	おおむね順調	おおむね順調
評価	主な取組内容や成果	子どもの居場所だけでなく、親同士のつながりを作る場、利用者の地域行事への参加、子どもたちの自主性を育む場としての機能を担っている。学童クラブの大規模校(永明、宮川、玉川)の空き教室増設を確保した。	子どもの居場所だけでなく、親同士のつながりを作る場、利用者の地域行事への参加、子どもたちの自主性を育む場としての機能を担っている。学童クラブの大規模校(永明、宮川、玉川)に合計4学童クラブを増設し、国の参酌基準に沿った運営を行うことができた。	地区こども館について、地区運営委員会と現状を共有し、運営方法等について協議することができた。新型コロナウイルス感染症防止の対策をとりながら各施設を安心して利用していただけるよう努めた。	地区こども館について、地区運営委員会と現状を共有し、運営方法等について協議することができた。新型コロナウイルス感染症防止の対策をとりながら各施設を安心して利用していただけるよう努めた。	(R4・総括評価共通)こども館について、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、状況に応じ利用制限の見直しを行ったことで利用者増につながった。地区こども館について、地区運営委員会と現状を共有し、運営方法等について協議することができた。新型コロナウイルス感染症防止の対策をとりながら各施設を安心して利用していただけるよう努めた。
	総合評価 課題	各施設において、利用者を増やすための様々な取組を行っているが、その取組を周知する必要がある。	地区こども館については、開館当初と比べ子どもたちの放課後の過ごし方が変わってきていることから、あり方を見直す必要がある。学童クラブにおいて、支援員の確保と質の向上が求められている。	地区こども館について、地区運営委員会と現状について協議することができた。新型コロナウイルス感染症防止の対策をとりながら各施設を安心して利用していただけるよう努めた。	地区こども館について、地区運営委員会と現状について協議することができた。新型コロナウイルス感染症防止の対策をとりながら各施設を安心して利用していただけるよう努めた。	(R4・総括評価共通)0123広場においては、居場所としての機能は回復したが、講座やイベント等の実施が通常どおりに行えなかったため、再構築する必要がある。CHUKOらんどテクノノにおいては、通常通りのイベント等が開催できず新規利用者を増やすことができなかったため、今後検討する必要がある。地区こども館においては、新型コロナウイルス感染症防止の対策について、どの程度の水準をいつまで維持していくかの判断が難しいため、国等の発言や動向を注視していく必要がある。設置から約20年が経過する中で、現在に合った形の地区こども館の在り方等を検討していく必要がある。
改革・改善	改革・改善内容	どんぐりネットワーク茅野をはじめ市民のみなさんの意見も伺いながら、これまでの周知方法を見直し、さまざまな機会を捉えての周知や情報発信の手段の工夫など、必要人に必要な情報が届くようにさらに取組を進めていく。	今年度4学童クラブが増え、常勤支援員の増員が必要である中、研修会への参加や、学童クラブ間の情報共有の場を提供する等、支援員の研修会の質をさらに向上させていく。また、地区こども館職員が地域のイベント等に携わるなど業務が増加傾向にあるため、業務内容の精査を行う。	地区こども館の安全管理について、これまでできていなかった学校との安全管理に係る認識の共有を図ることで、全地区こども館統一的な利用規約を定め、周知することができた。	地区こども館の安全管理について、これまでできていなかった学校との安全管理に係る認識の共有を図ることで、全地区こども館統一的な利用規約を定め、周知することができた。	0123広場で実施する講座にとどまらず、家庭教育センター等の外部施設で実施してきた連続講座を担うことにより、親同士の繋がりも継続的に支援していく。CHUKOらんどテクノノでは、イベントを行うだけでなく、各学校との繋がりがりや、SNSでの情報発信をしていく。地区こども館の安全管理について、これまでできていなかった学校との安全管理に係る認識の共有を図ることで、全地区こども館統一的な利用規約を定め、周知することができた。
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱 重点 事務事業	1	1	1	1
	理由	こども館0123広場は、子どもの居場所としてだけでなく、子育てに係る親の支援のための機能を備えている。施設の種類を整えることで利用者の増につなげたいため。	地区こども館のあり方の検討に合わせて、学童クラブの運営方法、放課後子供教室の設置の必要性等、市内の放課後の居場所を一体で検討する必要があるため。	地区こども館のあり方の検討に合わせて、学童クラブの運営方法、放課後子供教室の設置の必要性等、市内の放課後の居場所を一体で検討する必要があるため。	子どもの貧困対策に係る施策の検討に合わせて、地区こども館とこども食堂の連携、地区こども館を放課後子供教室として位置付けていくことを検討する必要があるため。	地区こども館のあり方の検討に合わせて、学童クラブの運営方法、放課後子供教室の設置の必要性等、市内の放課後の居場所を一体で検討する必要があるため。